

公開実用 昭和62- 190524

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭62- 190524

⑬ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)12月4日

A 46 B 7/04
5/00
17/08

8206-3B
B-8206-3B
8206-3B

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 歯刷子

⑯ 実 願 昭61-79395

⑰ 出 願 昭61(1986)5月26日

⑱ 考 案 者 江 口 泰 輝 宇都宮市峰町513-6

⑲ 出 願 人 花 王 株 式 会 社 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

⑳ 代 理 人 弁 理 士 古 谷 馨

卷之四

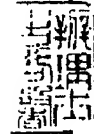
齒 刷 子

1 植毛台と、植毛台の周囲を把持する弾性棒状物と、この弾性棒状物の両端が埋め込まれた握柄からなる植毛台の交換が可能な歯ブラシに於いて、上記弾性棒状物が上記握柄の両側面を把持して延び且つその先端折曲部が上記両側面の中央に垂直に埋め込まれて、握柄を上記弾性棒状物の先端折曲部を軸として180°回転可能となし、且つ握柄の両端の一方に歯間用ブラシを突設してなる歯ブラシ。

2 歯間用刷子を収容する凹部が植毛台に設けられている実用新案登録請求の範囲第1項記載の歯刷子。

〔産業上の利用分野〕

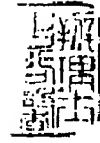
219



るコンパクトな歯刷牙子に関する。

〔従来の技術及び問題点〕

よく知られる如く、歯と歯の境目（歯間部）は特に歯垢が蓄積しやすい箇所であり、歯刷牙子で歯を磨いても、磨き残しが出やすいところである。そこで、従来特に歯間を磨くのに適した植毛パターンとブリッスルの形状を有する歯刷牙子が考えられているが、この場合は通常の歯刷牙子（現在市販されている最も普通の歯刷牙子）で磨いた後で、更に歯刷牙子を歯間用のものに交換して磨く必要があり、この様に種類の異なる歯刷牙子を2本用意することは不便である。そこで、従来通常の刷牙子の外に、この歯間用の刷牙子をも備えたタイプの歯刷牙子がいくつか提案されている。例えば、実開昭55-127535、同57-136235、同57-178534等に見られる。しかし、これらに記載されたものは、歯間用刷牙子が、握柄の一方の端に設けられ、他方の端に通常の刷牙子が設けられ、それぞれが固定されていてその位置を変えることができず、歯刷牙子を保管する際、特に



歯間用刷子のブリッスルの先端が手に触れたり、保管器具の壁等に触れて、そこが傷付きやすいという欠点がある。

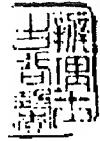
〔問題点を解決するための手段〕

本考案者は、通常の刷子と歯間用刷子を備えた歯刷子の上記欠点に鑑み、その欠点を解消する新しいタイプの歯刷子につき種々検討の結果、本考案の歯刷子を開発した。

即ち本考案は、植毛台と、植毛台の周囲を把持する弾性棒状物と、この弾性棒状物の両端が埋め込まれた握柄からなる植毛台の交換が可能な歯刷子に於いて、上記弾性棒状物が上記握柄の両側面を把持して延び且つその先端折曲部が上記両側面の中央に垂直に埋め込まれて、握柄を上記弾性棒状物の先端折曲部を軸として180°回転可能となし、且つ握柄の両端の一方に歯間用刷子を突設してなる歯刷子を提供するものである。

〔作 用〕

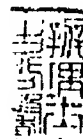
本考案の歯刷子の作用と特徴を、好ましい実



施例を図に示した添付図面について説明する。

第1図において、1が植毛台であり、2が当該植毛台の周囲を把持する弾性棒状物、3は握柄であり、2'は、握柄3の中心に埋め込まれた弾性棒状物の先端折曲部、4は歯間用刷子部である。握柄3は第4図に示した如き横断面形状を有し、弾性棒状物2は第3図に示す如く握柄3の側面に着脱可能に嵌合してこれを把持し得る様になっている。かかる本考案の歯刷子では、上記2'を中心として（ここを支点として）握柄3を180°回転させることができる。勿論握柄3ではなく弾性棒状物2の方を180°回転させてもよい。第2図は、第1図の状態から握柄3を180°回転させた状態を示すものである。

以上の説明から明らかなように、本考案の歯刷子は、まず普通の歯磨を行う時には、第1図の状態で行い、次いで特に歯間を磨きたい場合には、握柄を180°回転させて、第2図の状態として、歯間を磨くことになる。そして、磨き終わったら再び第1図の状態にして保管すればよ



い。こうすると、歯間用刷子 4 が、通常の刷子で保護された形になり、そのブリッスルが損傷しにくいという効果がある。よって、この保護という意味からも、歯間用刷子 4 を収納する凹部は、第 1 図のように植毛台 1 に設けるのが好ましい。

本考案の歯刷子では、植毛台の周囲と握柄の両側面には、第 3 図及び第 4 図に示すように、弾性棒状物と嵌合する溝を設けるとよいが、その他の形態に於いても実施し得ることは勿論である。弾性棒状物の材質としては、エネルギー弾性を有するものであればよく、例えば、金属、プラスチック、グラスファイバー等が挙げられるが、加工の容易さと強度を考慮すると金属が好ましい。

4. 図面の簡単な説明

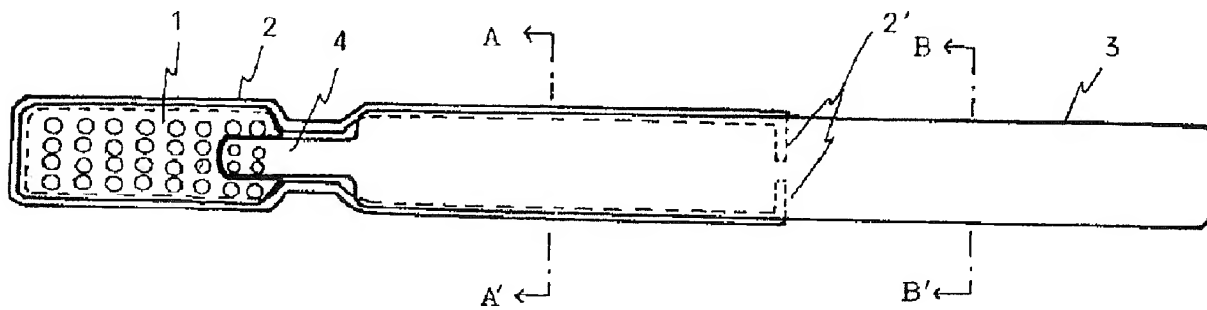
第 1 図は本考案の歯刷子の保存状態に於ける平面図、第 2 図はその歯間用刷子使用時に於ける平面図、第 3 図は第 1 図の A - A' 線断面図、第 4 図は第 1 図の B - B' 線断面図である。



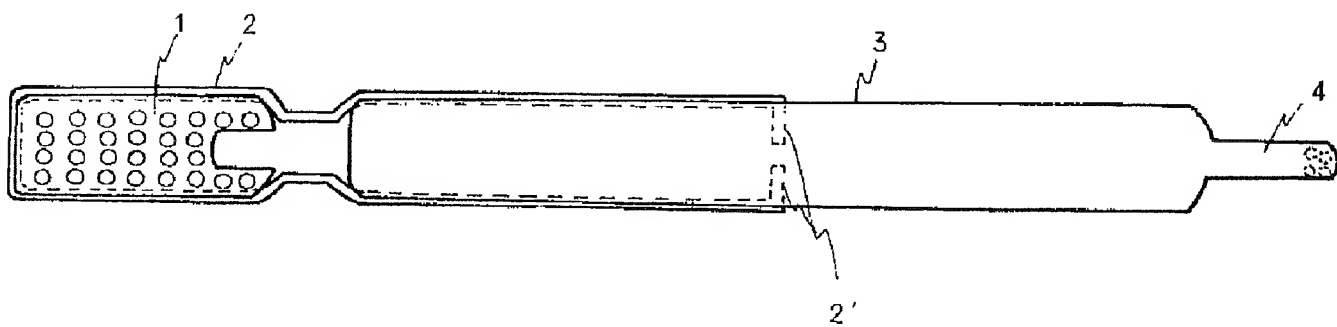
- 1 … 植毛台
- 2 … 弾性棒状物
- 3 … 握柄
- 4 … 歯間用刷子

出願人代理人 古 谷 馨

第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

